第７回学長会見資料２

第 15 回アジア・オセアニア放射線学会を９月に神戸市で開催

杉村和朗教授（神戸大学大学院医学研究科放射線医学分野）

アジア・オセアニア放射線学会会議は、アジア・オセアニアの 27 カ国からなるアジア・オセアニア放射線学会が開催する学術集会で、北米放射線学会、欧州放射線学会と並ぶ世界三極の学会として重要な放射線科領域の学術集会です。

2 年おきにアジア・オセアニア各国で開催されてきましたが、第 15 回大会が本学の杉村和朗教授を大会長として 2014 年 9 月 24～28 日に神戸市で開催される事となりました。約 4000 人の内外の放射線科関係者が集う予定で、大会のテーマは”Borderless Alliance, Education and Friendship” すなわち「国境を越えた連携、教育そして友情」としており、アジア・オセアニアを先導する我が国の高い放射線医学レベルを自負しつつ、医学教育と交友を深める責任を果たすべく現在準備をすすめております。

アジア・オセアニア放射線学会会議の日本での開催は 1998 年以来 2 回目ですが、杉村教授は現在アジア・オセアニア放射線学会の会長も務めており、学会の責任者として学術集会も主催するのは本邦では初めてです。

放射線医学領域は画像診断、核医学、放射線治療、インターベンショナルラジオロジーと診断から治療行為まで非常に多岐にわたる医学の分野であります。これまでのアジア・オセアニア放射線学会会議は主に画像診断を中心とした学術集会でありましたが、神戸低侵襲がん医療センターの設立に神戸大学医学部附属病院病院長として中心的な役割を果たした杉村教授が大会長となるにあたり、その範囲を放射線治療や核医学にまで大きく広げ、より網羅的に放射線医学領域をあつかう学術集会となる予定です。

これまでの医療の進歩は個々に細分化された専門性を極めることで進歩して参りましたが、現在は、これらの専門性を生かしながら、再び皆が協力して患者さんの診療にチームとしていかにあたっていくのか、が課題となっています。放射線医学領域も、形態診断から機能診断へと進歩が著しい画像診断をどのように治療に生かしていくのか、が課題であり、低侵襲治療の代表である放射線治療と画像診断の連携は、今後の医療の進むべき方向として重要なものです。この連携を学会の形式としても打ち出した第 15 回アジア・オセアニア放射線学会会議は、規模の面ならず学会の方向性としてもエポックメイキングとなるべきものと思われます。

なお本会議は日本政府観光局(JNTO)より国際会議誘致の部で表彰を受け，過日東京で授賞式が開催されました。